



GALLERY
うつわノート

焼締スリップウェア 幅 355 奥行 320 高さ 80mm

山田洋次スリップウェア展 再現と新生
二〇一七年十月二十一日(土) ~ 二十九日(日) 会期中無休



鉛釉スリップウェア 径 410 高さ 75mm



焼締スリップウェア 径 170 高さ 30mm

料金後納
ゆうメール

古典の「再現」は学びではあるがノスタルジーでもある。そこから発する「新生」は革新ではあるがチャレンジでもある。滋賀県信楽町でスリップウェアを製作する山田洋次さん。今展では、古典に迫る鉛釉による再現と、敢えて釉薬を取り払った焼締めによる新生のスリップウェアの対比をテーマに開催致します。

スリップウェアとは、泥状の粘土（SLIP）を模様にした陶器（WARE）の事。古くは紀元前まで遡ることのできる技法ですが、日本で一般的に知られているのは、18世紀から19世紀まで英国で作られた実用の器です。化粧泥の抽象模様が特徴的で、柔らかな土の景色は、当時の素朴な生活を感じます。本国ではあまり注目されなかったこの器の美しさを見出したのは、柳宗悦や民藝運動の陶芸家でした。英国産なれど、その美の発見は日本産なのです。

山田洋次さんは信楽の窯業試験所で学んだ後、イギリスに渡り現地の陶芸家アシスタントを経験。帰国後、スリップウェアに特化した制作を続けています。独立当初より暮らしに馴染むスリップ模様を中心にしてきましたが、今展では英国の古典的な作風に基いた鉛釉による再現と、無釉の土にスリップ模様を施した焼締めの新作を発表します。

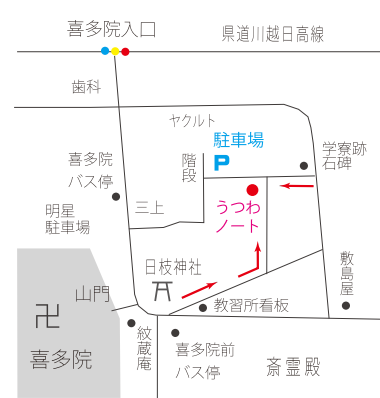
山田さんの思いは古典の再現に留まらず、その意味に近づくことでした。英国の古作のスリップは当時、その場でしか生まれ得なかったモノ。それを現代の日本で再現だけに終始するのは、懐古主義に過ぎないのではないか。あらためて自分が作る意味を問うたときに、表層を排した日本の焼締めとスリップ模様の交叉に辿りつきました。

今展は新旧の対比が主題となりますが、従来の日常使いのスリップも加えてご覧頂ける内容となります。もちろん評価はまだ未定ですが、皆様のご判断頂きたく、ご実見をお待ちしております。

店主

ギャラリー うつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL: 049-298-8715
MAIL: utsuwanote@gmail.com



電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分

バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]
駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]

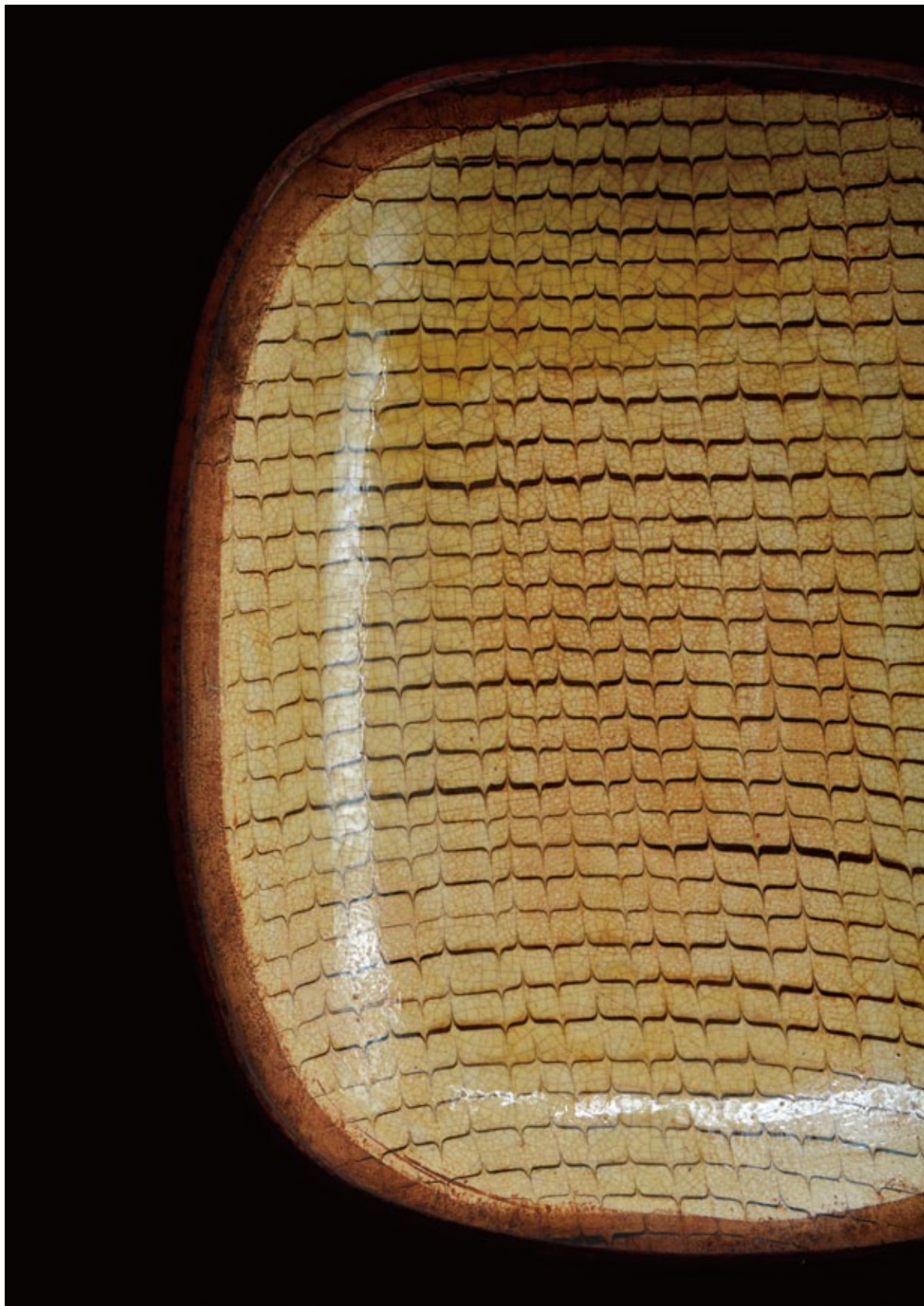
車：ギャラリー専用駐車場は北側(5～8番)

プロフィール
1980年 滋賀県東近江市生まれ
2002年 信楽窯業試験場小物ロクロ科修了
2007年 渡英 Lisa Hammond (Maze Hill Pottery) に師事
2008年 帰国後、古谷製陶所勤務
2012年 滋賀県信楽町にて築窯
2017年 現在、同地にて製作



山田洋次 スリップウェア展 再現と新生

二〇一七年十月二十一日(土)～二十九日(日) 会期中無休
営業時間 十一時～十八時 作家在廊日 十月二十一日(土)・二十二日(日)



鉛釉スリップウェア 幅410 奥行275 高さ60mm



焼締めスリップウェア 径170 高さ30mm